

藤原ナチュラルヒストリー振興財団設立 40 周年記念行事実施報告書

活動実施団体名 NPO法人徳之島虹の会

責任者・報告書作成者名 寛山一郎

1.活動の名称：世界自然遺産の徳之島でどんぐりを調べてみよう

「みんなで探る自然史シリーズー自然とともに歩むー」

2.実施日：令和3年10月13日(水) 9:40~12:15

3.実施場所：鹿児島県大島郡伊仙町検福内林道

4.プログラム：徳之島でも4年前から始まった中琉球におけるドングリ豊凶モニタリング調査の実際を見学・体験（一部）する。それとともに自分たちが通う学校周辺に、世界自然遺産の登録地域があること、及びその価値を体感する。

（タイムテーブル）

9:40~10:00 バス出発前のオリエンテーション

■世界自然遺産になった徳之島の自然の価値 ■徳之島のどんぐりの種類と特徴

10:00~10:15 実施場所へ移動（借上バス車中） ■どんぐりの調査は何を目的に行うのか

10:15~11:45 林道散策（講師及びスタッフが児童をサポート、補助講師の説明等）

■調査道具や手法の紹介 ■どんぐりさがし（地面・木の上） ■生き物探し

11:45~12:15 帰校（移動時間） ■感想・発表

5.対象・参加人数：伊仙町立犬田布小学校5,6年生、26名、引率教員4名、計30名

他講師1名、スタッフ4名（以上徳之島虹の会）、専門家（助言・指導）2名

6.活動の内容・状況・感想

★まずは実際の標本木（ドングリ調査を実施するために設定された大木）の前で、調査時に使用するGPSや双眼鏡、記録用紙の使い方、書き方などを講師から説明。その後、児童たちもそれらを使ってドングリを探してみた。ピントを上手く合わせられなかったり、眼鏡が邪魔だったり扱いに戸惑いながらも、多くの児童が積極的に使い方を試していた。主催者が実際に行う調査の様子を見学した後、数百メートルも続くスダジイを主要林とする町道を、ドングリなどの実やトカゲなどの生き物、鳥やセミの鳴き声や姿（脱殻）を探しながら身近にある自然と親しむことができた。

（主催者総評）

- ・自分たちの知らない事も、先生方から教えてもらって楽しかったし面白かった。（5年女子）
- ・世界自然遺産に登録されたので、ゴミがあったら拾っていい島だと思われたい。（6年男子）
- ・徳之島にしかない生き物などを大切にし、その生き物が食べるものなどをむやみに取らないようにしたい。（6年女子）
- ・とても良い体験になった。子どもたちも生き生きして、楽しそうにガイドさんや専門家の先生に質問していた。（引率の先生）

・身近なドングリをテーマにした授業でしたが、身近なようで意外と知らないことを講師のレクチャーや調査体験、自然観察などから多く学んでいたように思います。体験という形でも、自然の生態に興味を持つきっかけとしてとても有意義で、他の学校でも取り組めるといいなと感じました。島内の児童・生徒が学校を卒業するまでに、このような活動を一度は経験できるような継続的な環境教育の取組みが定着する仕組み作りができるとよいです。 (徳之島認定ガイド)

7.写真



調査地出発前、世界自然遺産について聞く



上空では渡ってきたばかりのサシバも



まずはGPSの使い方のレクチャー



調査マニュアルに基づく実施が大事です



← スダジイのドングリはこのような実ります

これを双眼鏡で見る練習をしましょう



実際の調査はこんな感じ



↑ 今年はここ数年来の豊作のようです

専門の先生のお話はメモ→

